

発行元: 株式会社アークフラッシュ本部

東京都新宿区百人町2丁目26番9号

<http://www.arc-flash.co.jp>

アークフラッシュ施工された老人施設 6年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> **新着施工写真を更新いたしました**

<< 施工報告 >>



(秋田県メロニーハウス施工)

<< 救急車にアークフラッシュが採用 >>

救急車には色々な病原菌や血液の散乱が有り、消防署の職員は目に見えない敵とも戦っていなければなりません、アークフラッシュはそのような防衛に一役 買います



<< ノロ情報 >>

米子保健所は19日、県済生会境港総合病院(境港市米川町)の入院患者14人と職員9人の計23人が14~19日、下痢やおう吐などの症状を訴えたと発表した。感染性胃腸炎とみられ、症状はいずれも軽いという。同保健所はノロウイルスの可能性もあるとみて調べている。

< 感染シミュレーション >

人口密集地の首都圏で新型インフルエンザが発生した場合、最初の患者の診断が確定した時には、感染者は首都圏全域で約3000人にも広がっている可能性があることが、国立感染症研究所の試算でわかった。

大都市圏での感染の早期封じ込めが、極めて困難なことが裏付けられた。

大日康史(おおくさ・やすし)同研究所主任研究官らは、首都圏在住者88万人の移動パターンを調べた東京都市圏交通計画協議会のデータを使い、新型インフルエンザの感染拡大の様子をコンピューターで試算した。

アジアかぜ(1957年)や香港かぜ(68年)など、過去の新型インフルエンザの潜伏期間は1～3日。そこで、東京・八王子市の会社員が新型インフルエンザが流行している海外で感染し、その潜伏期間中の3日目に帰国したと想定。翌日の4日目には発熱症状が出始めたが、東京駅周辺の会社に通勤し、5日目に会社で倒れるまで2日間、電車や会社、家庭などで感染を広げる最悪のケースを考えた。

*** 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.com

1号～64号までを配信希望の方はメールにて申込ください。